

【基本理念の体系の柱(案)】

親が安心して子どもを産み育てられる地域

子どもが健康に成長することを支える

子どもがのびのびと成長できる家庭と環境をつくる

ひとりひとりの子どもが平等に成長する権利を守る

子どもの豊かな人間性を育てる

子どもが地域に誇りと満足感を持つ

親が安心して子どもを生み育てられる地域

子どもが健康に成長することを支える

【いい親でありたいと思いが親の不安や負担を増加】

- ・周りのことが気になる、がんばりすぎる親の増加
- ・自分と子育てに自信が無い親の増加
- ・産後うつとなる母親の増加
- ・親の二極化
- ・子どもとの接し方がわからず、インターネットの情報にたよる親が多い

【乳幼児の広場を中心とした地域づくりの充実】

- ・安心して集える場がたくさんある
- ・特徴がある子育て支援の団体が多く、利用しやすい
- ・一時保育も利用しやすい
- ・サークル作りの機会が多くある
- ・子育て支援講座や先駆的なパパ手帳がある
- ・子育てに熱心な両親が多い

【新生児・乳児医療体制の充実】

- ・新生児救急センターがあり、小児救急医療が充実している
- ・母子に対する病院の救急体制が整っている
- ・医療施設が多い
- ・妊娠中・新生児からの継続した保健指導などの公的支援が充実している

【相談体制の充実】

- ・地域ごとにさまざまな相談場所がある
- ・おやこDE広場、子育て支援センターに、子育てコーディネーターが配置されている
- ・健康推進員が出産前後の相談を受けている。

【子育てを想像できる取り組み】

- ・妊娠、出産のマイナスイメージを少なくする
- ・母子健康手帳配布時の情報提供の充実させる
- ・出産前の仲間づくり、情報交換、交流の場の機会を提供する
- ・中・高校生と乳幼児の体験機会の拡充

【安心感を与える地域づくり】

- ・子育て中の親が自己肯定感を持って子どもを育てられるように、ありのままでもいいと言ってくれる人と出会えるような地域づくり
- ・色々な人や異世代コミュニケーションがある地域
- ・地域で子育て中の家庭を見守り、支える
- ・出産を心待ちにできる環境と制度
- ・病院とこども発達センターが連携して支える

子どもがのびのびと成長できる家庭と環境をつくる

ひとりひとりの子どもが平等に成長する権利を守る

【乳幼児期の教育・保育施設が主体となった取組み】

- 保育・教育内容が充実している
- 全公立保育所に専任の看護師が配置されている
- 幼稚園、保育所の設置数が多いため、家庭の事情に合わせて通う所を選べる
- 幼稚園、保育所、小学校の連携による一貫したプログラムづくりが必要

【家族と家庭と生活の大切さを伝える】

- 親の体験不足が子どもに体験の機会を減らす
- 親のコミュニケーション力が弱く、孤立してしまう
- 親が挨拶ができない、笑顔がもてない、子どもを急がせる
- 子どもの成長目標が画一化している
- 休日に皆でゆっくり過ごし、家族で食卓を囲める生活ができること
- 父母が子どもを見守るという視点が大切
- 挨拶・返事・生活態度をきちんとする
- 働くことと育てることが両立できるように支援する
- 幼稚園、保育所が伝えられること

【全ての子どもに平等に機会を与える支援】

- 子どもひとりひとりが平等に、対等に就学前の教育を受ける機会
- 全ての子が幼児期に教育を受けられるようにできる
- 障害のある子どもや外国人の子どもなどと、ともに育ちあうための取組み
- 子どもが主体的に、自由に決められる機会がある

【親と子が地域とのつながりを大切に思う街づくり】

- 子どもに関心のある大人がいる反面、子どもをうるさいと思う大人もいる
- 家の周りで遊ぶことが困難

子どもの豊かな人間性を育てる

子どもが地域に誇りと満足感を持つ

【地域子どもが育つ環境の資源が充実している】

- 子育て支援に熱心な地域も多く、地元の商店街も協力的で人材に恵まれている
- 歴史ある資源や緑の自然や公園が多く、自然体験の可能な場が種目ごとにある
- 駅が多く交通の便がよい
- 非行防止のための地域での補助活動や見守り、ボランティアが盛んである
- 地域活動が盛んな地域は子どもたちの活動も盛んである
- 中高生が夏休みに事業のボランティアができる制度がある
- 子どもが地域の活動に緩やかに参加できるような取り組み
- こども発達センターが就学後もひきつづき支援できるシステムをつくる

【家庭の教育力を支援する】

- 子どもの成長と自分の生き方を別に考える親が増加している
- 就労している親の増加と子ども自身の多忙により子どもと過ごす時間が取れない
- 親自身が社会的なモラル不足であることが家庭での基本的なしつけの不足となっている
- 父親の参画事業
- 学校や家庭で不足している児童生徒へのサポートの充実
- 学校や家庭だけでは支えきれない子どもと親への支援

【子どもが遊び参画する居場所づくり】

- 児童館に代わるような、子どもが安心して主体的に遊べる場所と時間をつくること
- 子どもが外遊びが出来る機会や取り組みを増やす
- 体験の場、自分で考える場、
- 放課後児童クラブを含めた子どもの放課後の居場所事業の質の向上、遊びメニューの充実、指導員のレベルアップ

【子どもの心を育てる支援】

- 地域の取り組みにより、素直に育っている子どもが多い
- 子どもたちは学校行事、勉強、部活動等でとても忙しい生活をしている
- どこにも参加していない子どもは無目的に生活している
- インターネット環境が子どもの生活スタイルを変えている
- 自分の意見を持ち、自己への自信と発信力があり
- 様々な体験を通して豊かな人間性を築いて、感情の豊かな人となる
- 学校で知識を学び、その知識を生かす知恵を身につけることができる取り組み
- 学校と子育て支援施設の連携による子どもへの支援の強化